

2018年08月07日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【ユーロ/ドルの下値 1.1500 アラウンドは、重要なチャート・ポイント】

今の時期は、「夏休み相場」の真っ最中で、市場参加者は、極端に少なくなっている。

この週末から来週にかけては、日本のお盆に当たるので、その時は、もっと市場参加者が少なくなるはずだ。

そのため、ドル/円相場の値動きを見ると、膠着感が強い。

しかし、その一方で、ユーロ/ドル相場を見ると、下値 1.1500 アラウンドを目前にしている。

ユーロ/ドルの下値 1.1500 アラウンドは、このところの重要なチャート・ポイントになっている。

言い換えれば、このところのユーロ/ドルは、概して、下落気味であったが、いつも、下値 1.1500 アラウンドでサポートされていた。

下値 1.1500 アラウンド近くまでは下落するのだが、そこから反発に転じて、下値 1.1500 を割り込むことが無かった。

こういった値動きをする場合は、チャート・ポイントであるユーロ/ドルの 1.1500 に、大口の為替オプション取引が組まれているケースが多い。

今回も、そういった為替オプション取引があるのだろう、と推測している。

確かに、そのような大口の為替オプション取引がある場合は、1.1500 アラウンドが近づくと、その水準で、「ユーロ買いドル売り」を行い、1.1500 を割り込まずに、反発すると、先ほどに行った「ユーロ買いドル売り」のポジションの利食いを行う。

そういった取引が大口の為替オプション取引に伴って、大量に行われる傾向が強い。

しかし、このような大口の為替オプション取引が組まれている場合は、最終的に、その価格に、為替レートが収斂（しゅうれん）し易くなる。

上述の取引が繰り返されれば、収斂（しゅうれん）し易くなることは、「自明の理」だろう。

そして、気を付けなければいけないことは、為替オプション取引には、期日（満期）があるので、期日（満期）を過ぎれば、雲散霧消することだ。

つまり、期日（満期）までは有効だが、突然に無くなるということだ。

「夏休み相場」の真っ最中で、市場参加者が極端に少ないこの時期に、1.1500 アラウンドを下にブレイクする場合は、想像を超えた値動きになる可能性もあり得る、と考えています。

ただし、この場合の「想像を超えた」という意味は、極端に大きな一方通行（＝大きな下落）かもしれないし、あるいは、極端に大きな上下動（＝乱高下）かもしれません。

あるいは、全く逆に、チャート・ポイントをブレイクしたのに、小動きになってしまうような、「事前には、思いつきもしない、つまらない相場」になるのかもしれません。

こういった時の対処法は、大局で戦うことです。

大局が、つまり、トレンドが、「ユーロ売りドル買い」であることを忘れずにいれば、大過の無く対応ができる、と考えます。

+++++

（2018年08月07日東京時間14：45記述）